

鉛筆デッサン

入学試験問題

鉛筆デッサン(3時間)

【問題】

配付されたモチーフを持つ手を鉛筆デッサンしなさい。

[条件]

- モチーフを持つ手は片手であること。
- モチーフ(木片)の種類と数は自由に選んで良い。
- モチーフ(アクリル球)は必ず入れること。
- 包装材はモチーフではない。
- 答案用紙は縦横自由。
- 目隠しカードの上に、画面の「上」を示す矢印「↑」を必ず書くこと。

[配付物]

- 試験問題
- 答案用紙(B3画用紙)×1枚
- 木片(3種類)×各2個
- アクリル球×1個
- 下書き用紙(B4上質紙)×2枚

《禁止事項》

指定された氏名欄以外への本人の氏名、受験番号等の記載を禁じます。

出題意図と評価のポイント

この出題は、木片やアクリル球を手に持つという行為から生まれる、様々な表情やおもしろさを見つけるかという観察力(みること)や表現力(みせること)を試すデッサン問題である。しかし空想上のものを描くのではなく、実際に片手で持った現実感(物と自分との距離や関係を意識し「手を持つという行為そのもの」)を見て描くことを基本としている。出題のねらいは、観察を通して得た複数の情報を簡潔に整理し『何を見せたいか』を構成し演出する描写力を含めた表現力を求めている。また、手を持つという行為

から生まれる「新たな発見や工夫」を期待したものである。
採点時、問題文の「モチーフを持つ手をデッサンしなさい。」という条件に書かれた「持つ手は片手であること。」に対して、モチーフを手で持っていない、モチーフを両方の手で持っているなど違反作品が数点みられたが、大多数の受験生は出題意図を理解し的確に問題文を把握していた。さらに条件にある画面の上下を表す矢印を記入していない作品は減点されている。



デザイン

入学試験問題

デザイン(3時間)

【問題】

- 「歩」「走」「飛」という人間の動作から1つを選び、そこからイメージされる擬音語※1または擬態語※2を含む文を20字以内で作りなさい。
(例:「彼はつるつるすべりながら走った」「私の身体はフワリと飛んだ」「彼は雪の道をサクサク歩いていった」など)
- 1で作った文の視覚的イメージを元にして色彩構成しなさい。

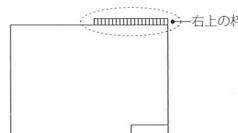
※1 擬音(語)=映画・演劇・小説・漫画などで実際の音に似せて人工的につくり出した音。効果音。それをことばで表したもの。「ピューッ」「コツコツ」「バシッ」など。

※2 擬態語=事物の状態や身ぶりの感じをいかにもそれらしく音声にたとえて表した語。「じろじろ」「じたばた」「くるくる」など。

[条件]

- 文には選んだ漢字(「歩」「走」「飛」)を必ず入れること。

- 右上枠内に自分の決めた文を必ず記入しなさい。



- 描く形態は具象、抽象、文字等自由。
- 色数は自由。
- 描画面は与えられた紙面全体とする。ただし白は白地とみなすので、全面を塗りつぶさなくても良い。
- 答案用紙は横位置使用。
- 右上枠内の文字書き込み部分は塗りつぶさないこと。

[配付物]

- 試験問題
- 答案用紙(B3ケント紙)×1枚
- 下書き用紙(B4上質紙)×3枚

《禁止事項》

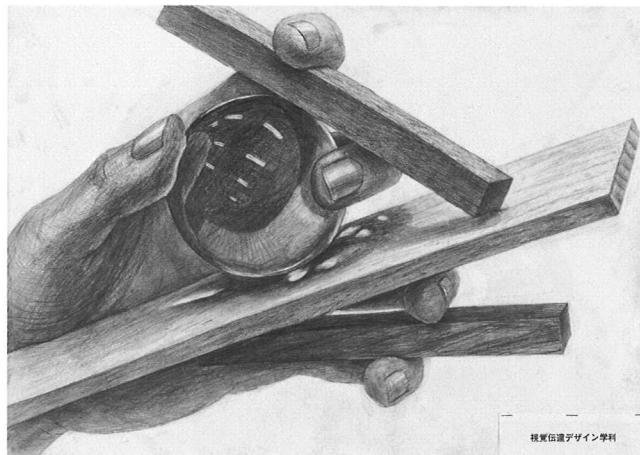
指定された氏名欄以外への本人の氏名、受験番号等の記載を禁じます。

出題意図と評価のポイント

私たちが普段何気なく使っている擬音語、擬態語は聴覚的なもの、触覚的なもの、視覚的なものなど五感全てに関わっている。

擬音語はTV、映画、アニメなどの映像、ゲームやデジタル機器の効果サウンドなどにも深く関わり、擬態語は文章のみならず漫画などにオノマトペとして使われるなど、私たちのコミュニケーションに欠かすことが出来ない。ここでは受験生に自らの具体的な経験の中からまずは擬音語、擬態語が含まれる状況を設定してもらい、それを色彩と形態によってどのように表現するかを見た。個人的、感覚的な経験を画面に置き換える時、それが自らの意図に沿って適切に表現されているか、またそれが私たち他者に実感を持って伝わっているかを探点のポイントとした。

結果的に提出された作品は具象的な状況描写から抽象的な表現まで、あるいは文字そのものをモチーフにしたもの、視覚的な表現から触覚的なものまで多様な表現があった。採点においてはその多様性を尊重しつつ、着眼点、解釈のユニークさ、空間(画面)構成のダイナミズム、リアリティ(ことばと表現の説得力)、色彩(美しさや適切な使用)などを基準にして行った。



視覚伝達デザイン学科

教員コメント

いろいろと持ちかえてみたのだろう。それぞれの指の圧力でモチーフ同士の力点をうまく活かし、球と柱材と板材がバランス良く組み合わされている。この複雑な構造としつこいまでの觀察力がこの絵の主役だ。



視覚伝達デザイン学科

教員コメント

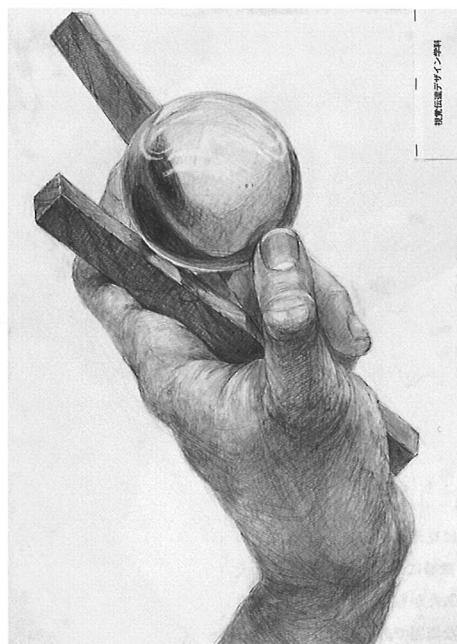
出題意図をシッカリと読み取っている。無理の無い体勢で適度な数のモチーフを片手で持つ。あいまいな手の形を気にさせない、アクリル球の内部の写り込みと光の反射に注目した作者の姿勢が心地よい。



視覚伝達デザイン学科

教員コメント

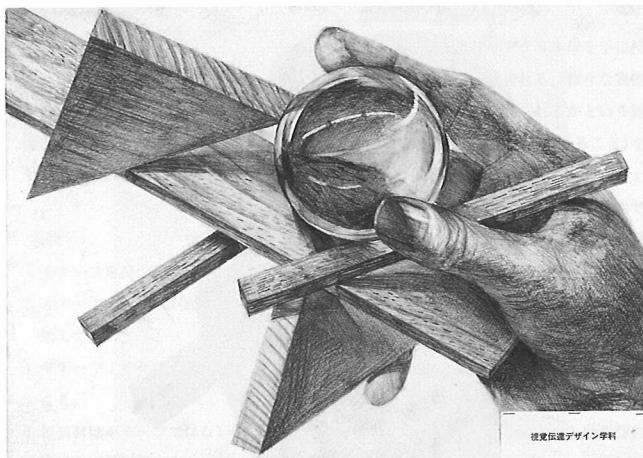
手とモチーフの間に生まれた空間に、見るものの視線を誘導する作品だ。球の表面で反射する螢光灯の配列からは、手やモチーフの描写にとどまらず、部屋の中の光の状況まで注意深く捉えていることが分かる。



視覚伝達デザイン学科

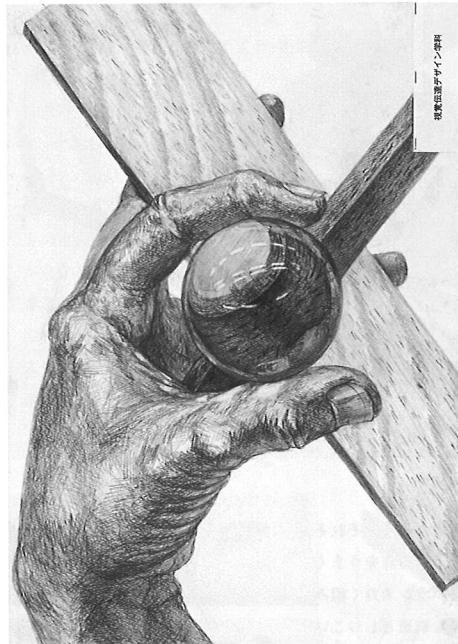
教員コメント

この球を見て欲しいと差し出されたかのような構図である。アクリル球に映り込む世界は視点を移動すると大きく変化する。作者の決めたポーズはレンズのように拡大された瞬間をとらえたようだ。



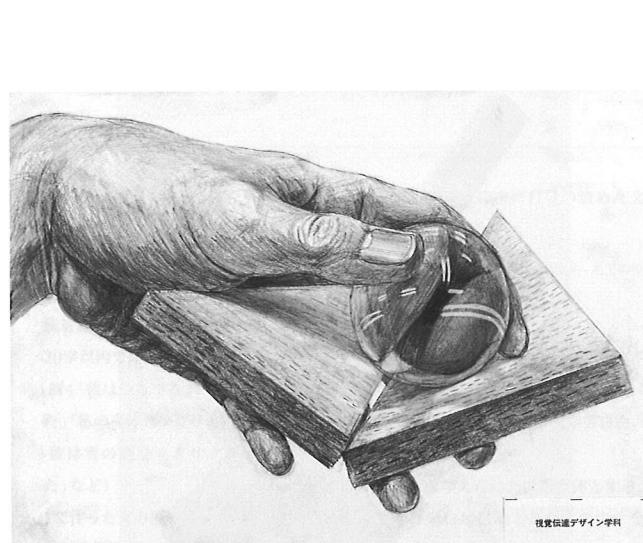
教員コメント

にぎやかで楽しさが伝わってくる作品である。2本の柱材をお箸のように使ってモチーフを一杯つかんでいる。あたかもこれから落ちていく瞬間をとらえたかのような不思議な位置の三 角板が効果的だ。



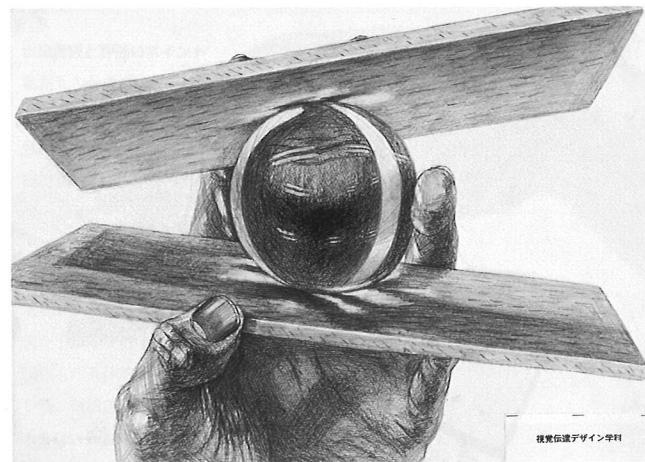
教員コメント

ていねいな手の観察と明確に表現されたそれぞれのモチーフの質感と空間意識は申し分ない。しかし作者にしかわからない縦横の構図を表す矢印を書かなかったため、もったいない減点となつた。



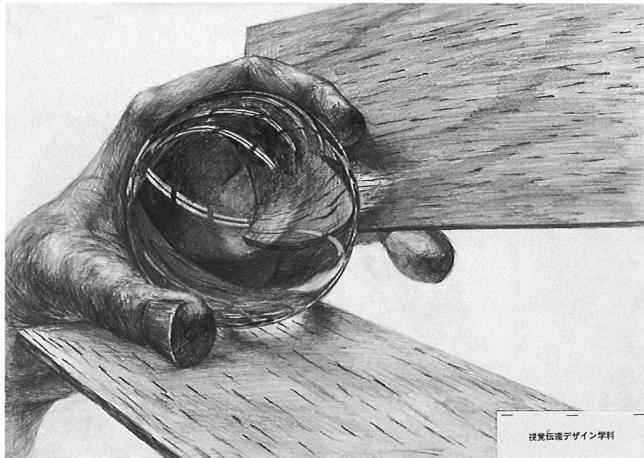
教員コメント

アクリル球の中に見える光の世界を伝えたかったのであろう。微妙にズレた2つの三角板との隙間の関係をあたかもレンズで拡大して覗き込んだかのような構図である。作者の狙いが生きている。



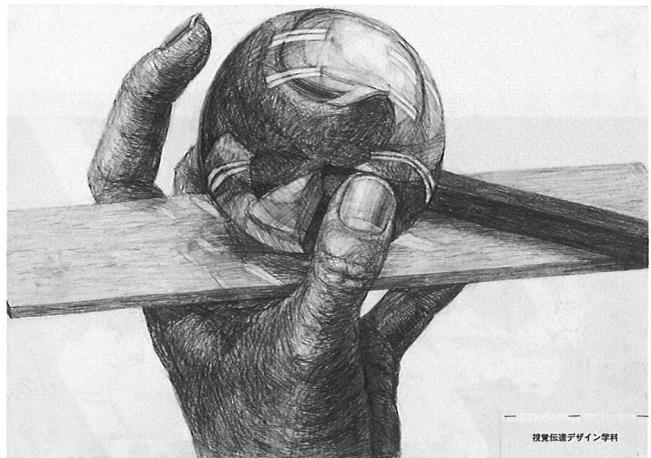
教員コメント

2枚の板材でアクリル球を挟んだ印象的な構図は、あたかもこれからハンバーガーを食べようとする瞬間のようだ。思わず笑みを誘う、こうした楽しさを伝えようとする作品にはパワーがある。



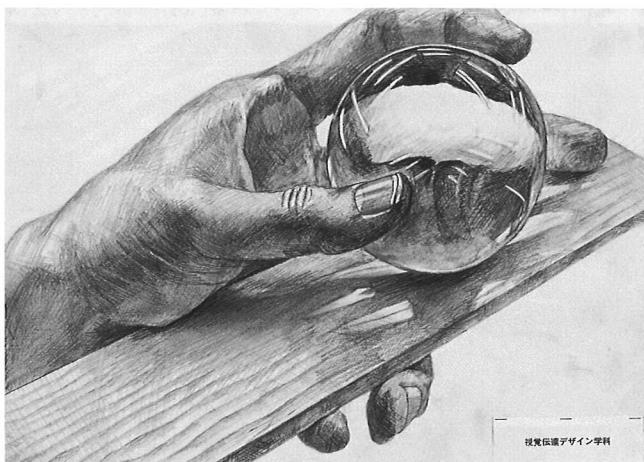
教員コメント

採点時に、「きっと野球部だね。」と話題になつた作品である。前に飛び出してくる板材の劇的な構図とシッカリと握った球の存在が強烈だ。適切な明暗表現が、アクリル球の透明感を引き出している。



教員コメント

決してうまいとは言えない作品だ。しかしひとつだけ書き込まれたこの作品の力強さは、誰もが納得する。3時間の中での時間配分はそれぞれであり、どこを完成とするかは作者の強い意志の現れである。



教員コメント

板材とアクリル球を持つおおらかな手の表現、その板に写り込む光線の変化に目を奪われる。手の表情がシッカリと描かれているのでモチーフの素材感が際立ってくる。透明な球の冷たさと木の温かみが伝わってきそうだ。



教員コメント

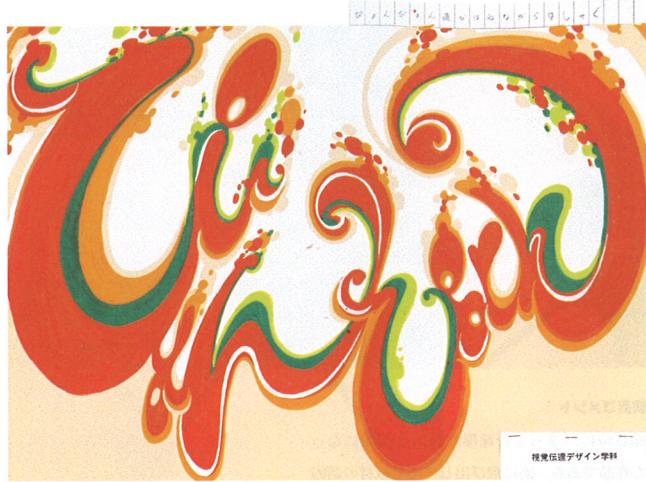
三角板の頂点が手のひらに食い込んでいる。その痛さを思われるよう固いモチーフを持つ手の感触が伝わってくる。アクリル球を三角板の角に押し付ける中指からは複雑な力加減も見えてくる。



霜をサクサクとふみ鳴らしながら歩く

教員コメント

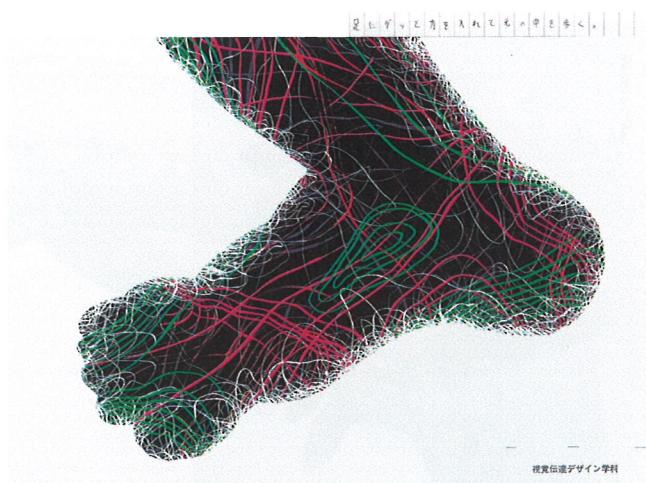
季節を感じて歩く若い人の、詩的で遊び心のあるデザインだ。歩く音を、斜め構図の直線・曲線のリズムで大胆・繊細に表現。冬の空気感の表現では、白と寒色系で主調を示し、暖色はアクセント、濃色は対比効果で堅実。



びょんびょん飛びはねながらはしゃぐ

教員コメント

「びょんびょん」と飛び跳ねる様子を、文字を変形させることによってうまく表現している。文字のか形なのか、意味と形態が交互にイメージされる画面からは、作者の構成意図がはっきりと読み取れる。



足にグッと力を入れて光の中を歩く。

教員コメント

この作品の良さは、光のイメージを白く細い曲線で表現したアイデアにある。足の輪郭が光によってぼけて見えるように構成しているが、出題意図である視覚記号の操作に対して十分に答えを出してくれた秀作。



スキーアーがジャンプ台からフワッと飛んだ

教員コメント

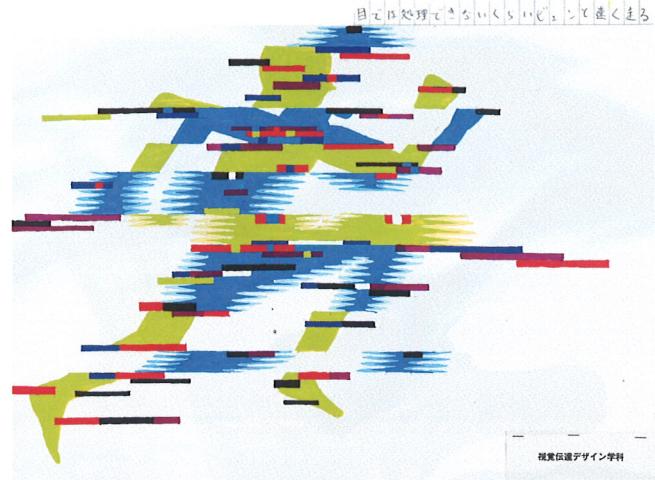
パースペクティブを強調したレイアウトで、ジャンプ台から飛んだダイナミックな躍動感が伝わってくる。スキーアーの細かく塗り分けられた色面もシンプルな背景と対比をなし、見る者に迫ってくる効果を増幅している。



ガッと走り出す足は躍動する

教員コメント

「ガッと走り出す」というには若干フォルムがステレオタイプで動的な印象に欠ける嫌いはあるが、細かく鮮やかな色面で力の入った足裏を表し、他は極端に単純化する構成は効果的で、作品を魅力的にしている。



目では処理できないくらいビュンと早く走る

教員コメント

動体視力で人の視覚能力の限界域に発生する身体感覚をデザイン主題としている。表現技術は最高度ではないが、ずれ・ぶれ・揺れという分裂や乱れという流動する視覚像の表現アイデアとして、挑戦的新鮮で優れている。



ヒュン! 目にも止まらぬ速さで走っていく

教員コメント

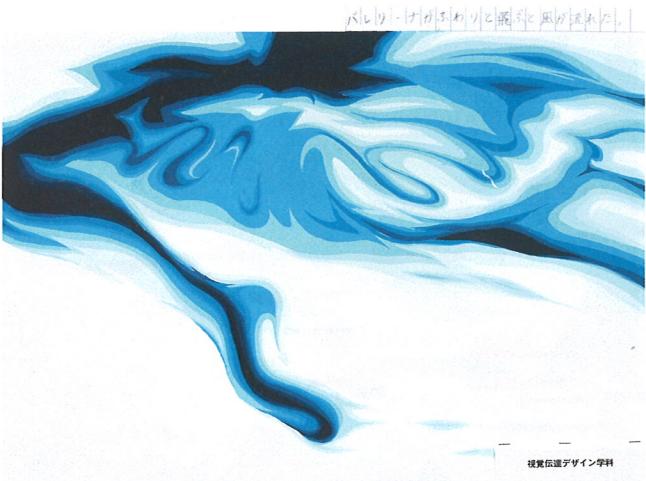
一見、文字に見えないくらいにデフォルメされているが、動的なフォルムと文字の意味が上手く融合されて面白い効果を生んでいる。色使いもシンプルながら鮮やかで緊張感のある作品となった。



スッと風とともに飛んだ

教員コメント

画面は最大限に突風の様子を表現するために画像を大きく見せる効果のある対角線上で表現している。さらに遠近法を効果的に使いながら、「飛」という漢字の表現を加えており、力強い作者の制作意図が伝わってくる。



バレリーナがふわりと飛ぶと風が流れた。

教員コメント

バレリーナの軽妙な身体の動きは、日常の観察から導き出されたもので、形への理解がしっかりできている。動きに伴う風の軌跡が、青一色のグラデーションによる透明な表現で見事にとらえられており高く評価される。



バソ、バソ、ソ、水たまりをリズム良く歩く

教員コメント

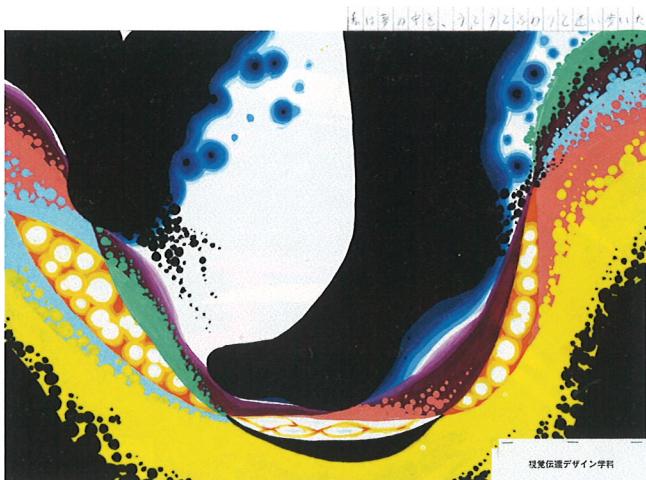
設定文がよく表現された作品。長靴の形と水をイメージした柔らかな形が重なり合い「バシャバシャ」と歩く時間の流れが効果的に表現されている。色彩の使い方にも透明感があり、構成力に優れた作品となっている。



ペタ、冷えた風呂場に一步踏み入る。

教員コメント

誰もがよく知っている感覚をテーマにした着想がよい。うねる境界線で暖色と寒色を上下二分し、シンプルで強度のある構図で主題を示す。タイルにのせた足裏が感じる温度差を、圧力差で知的構成し全身が想起される程。



私は夢の中を、うとうとふわりと迷い歩いた

教員コメント

体重がかかって沈み込んでいる床が、綿のような空間を踏みしめている浮遊感をよく表している。擬態語「うとうとふわり」の表現は巧みである。踏みしめると出る飛沫に触覚的な空間をも想起させる効果が素晴らしい。